

県内企業景況調査結果

(2023年7~9月期実績、2023年10~12月期見通し)

— 県内景況は、引き続き回復している —

(前回)県内景況は、力強く回復している

- 業況判断D.I.は「好転」超幅が縮小したものの、**6期連続のプラス**
来期は「好転」超幅がやや拡大する見通し (4ページ)
- 景況天気は5期連続の「晴れ」。来期も引き続き「晴れ」となる見通し (7ページ)

■主要D.I.(カッコ内は前回調査からの変動幅)

(参考)

	業況判断D.I.	景況天気	売上D.I.	採算水準D.I.	資金繰りD.I.	雇用判断D.I.
当期実績	18.0 (▲8.0)	 晴れ 17.7(▲3.0)	21.4 (▲7.9)	24.5 (+0.5)	7.1 (▲1.6)	50.3 (+1.5)
来期見通し	20.5	 晴れ	29.5	29.5	2.2	52.2

[調査内容についてのお問い合わせ先]

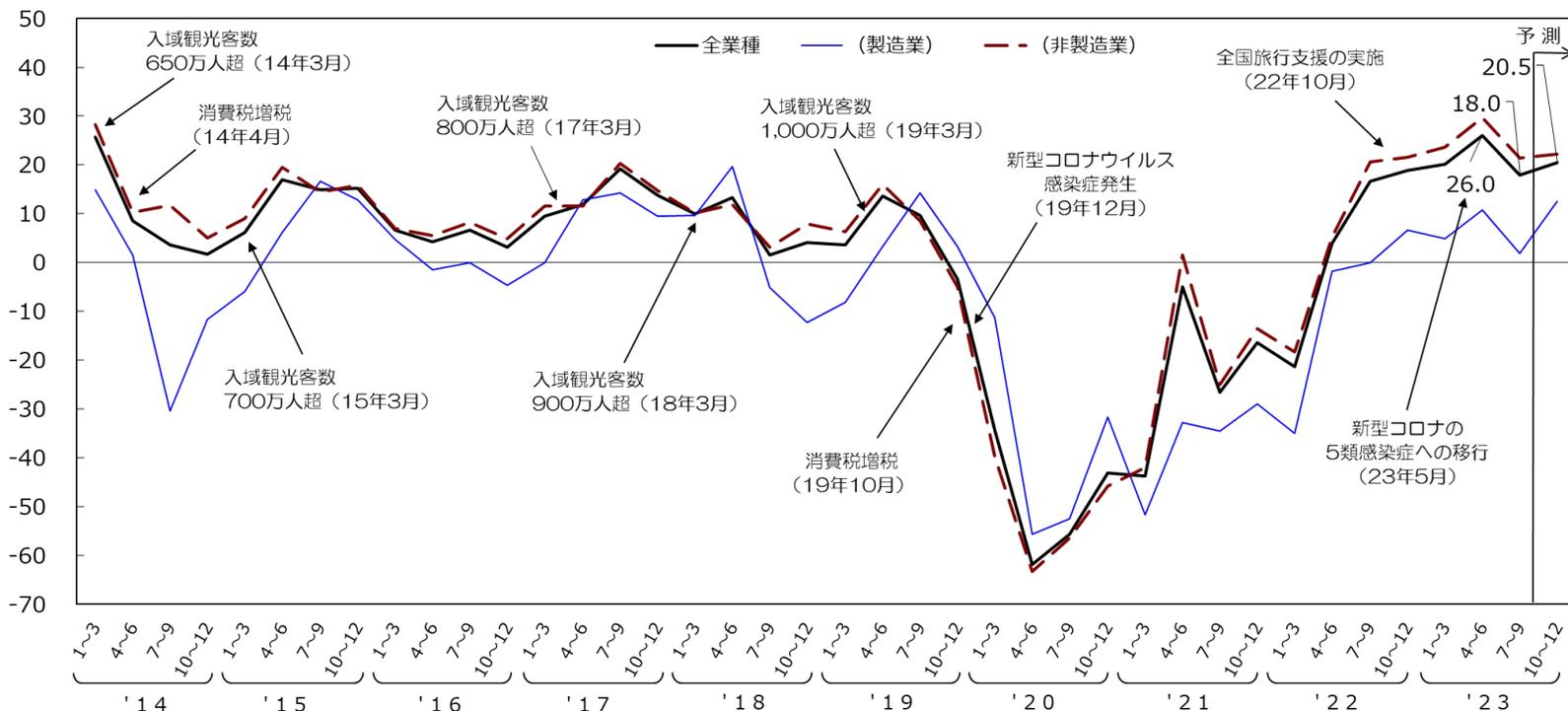
調査部 金融経済調査課(担当:新里) 沖縄県那覇市おもろまち1-2-26 電話:098-941-1725 FAX:098-941-1920

調査結果の概要 (I)業況判断D.I.

- 23年7~9月期実績の業況判断D.I.は18.0%ポイント(以下、単位省略)と、前回実績26.0と比べて▲8.0と「好転」超幅が縮小したものの、6期連続のプラスとなった。
- 原材料高や人手不足の影響に加え、一部で台風の影響がみられたものの、観光需要の高まりや堅調な個人消費のもとで引き続き業況は回復している。
- 23年10~12月期の見通しは20.5と、「好転」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

図表I 業況判断D.I.の推移

(単位:%ポイント)



(2)景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)

- 当期の県内企業の動向を全産業ベースで見ると、売上D.I. (29.3→21.4)で「増加」超幅が縮小したものの、採算水準D.I. (24.0→24.5)で「黒字」超幅がほぼ横這い、資金繰りD.I. (8.7→7.1)で「楽」超幅がほぼ横這いとなったことから、景況天気 (20.7→17.7)は5期連続の「晴れ」となった。
- 来期の見通しは、資金繰りD.I. (2.2)で「楽」超幅がやや縮小するものの、売上D.I. (29.5)で「増加」超幅が拡大、採算水準D.I. (29.5)で「黒字」超幅がやや拡大することから、景況天気 (20.4)は「晴れ」の見通しとなっている。

図表2 全産業における景況天気図の推移

(単位:%ポイント)

区分	2022年			2023年				
	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期		10~12月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
景況天気図	 薄曇り 6.7	 晴れ 16.2	 晴れ 12.1	 晴れ 15.7	 晴れ 20.7	 晴れ (22.4)	 晴れ 17.7	 晴れ 20.4

図表3 全産業における売上D.I.・採算水準D.I.・資金繰りD.I.の推移

(単位:%ポイント)

区分	2022年			2023年				
	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期		10~12月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
売上D.I.	14.6	28.4	24.5	25.0	29.3	(31.1)	21.4	29.5
採算水準D.I.	8.2	17.3	14.8	19.6	24.0	(29.0)	24.5	29.5
資金繰りD.I.	△ 2.7	3.0	△ 3.0	2.4	8.7	(6.9)	7.1	2.2

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

項目 業種	調査対象 企業数 (A)	回答数 (B)	回答率 (%) (B)/(A) ×100
全産業	371	322	86.8
製造業	68	56	82.4
建設業	68	62	91.2
卸売業	48	42	87.5
小売業	48	40	83.3
運輸業	34	32	94.1
情報通信業(※1)	23	19	82.6
サービス業	46	41	89.1
飲食店・宿泊業	33	27	81.8

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し、自計記入を求める方法による。

5. 調査対象期間

当期:2023年7~9月期実績

来期:2023年10~12月期見通し

6. 調査実施期間

2023年8月下旬~2023年9月中旬

(発送:2023年8月18日、回収基準日:2023年9月8日)

7. 用語説明等

- 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- D.I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD.I.を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

※1 情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

※2 全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

Ⅱ. 調査結果 Ⅰ. 業況判断

— 当期は「好転」超幅が縮小したものの、6期連続のプラス、
来期は「好転」超幅がやや拡大する見通し —

- 当期の業況判断D.I.(全産業)は18.0と、6期連続のプラスとなった。
- 新型コロナが5類感染症へ移行したことで経済活動の正常化が進み、高まる観光需要のもとで飲食店・宿泊業を筆頭に「好転」超となったほか、個人消費が堅調に推移していることから引き続き業況は回復している。
- 業種別にみると、建設業で「悪化」超から「好転」超に転じ、情報通信業で「悪化」超幅が大幅に縮小したものの、卸売業、小売業、運輸業、サービス業、飲食店・宿泊業で「好転」超幅が大幅に縮小、製造業で「好転」超幅が縮小した。
- 来期の業況判断D.I.は20.5と、「好転」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

図表4 業況判断D.I. (前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合) (単位:%ポイント)

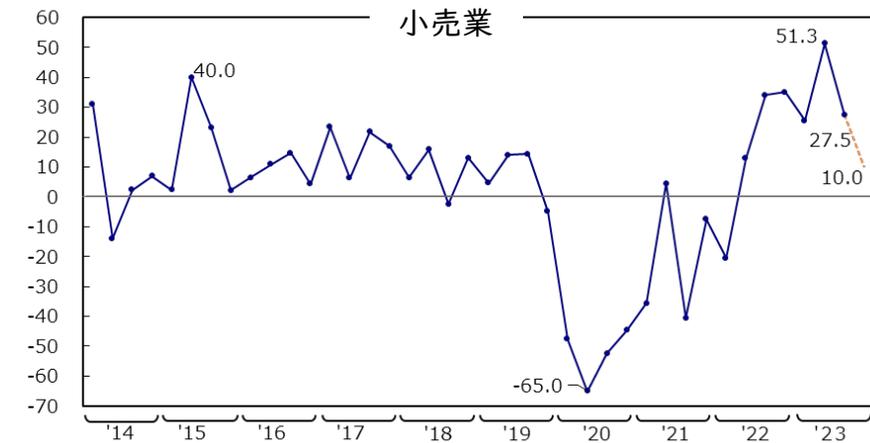
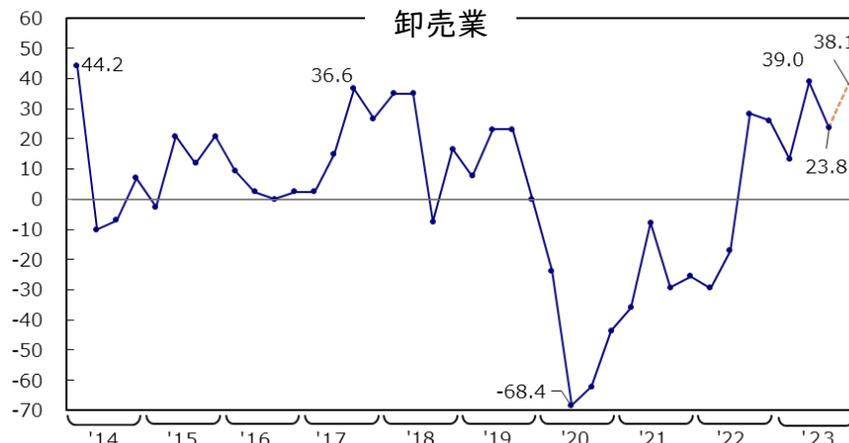
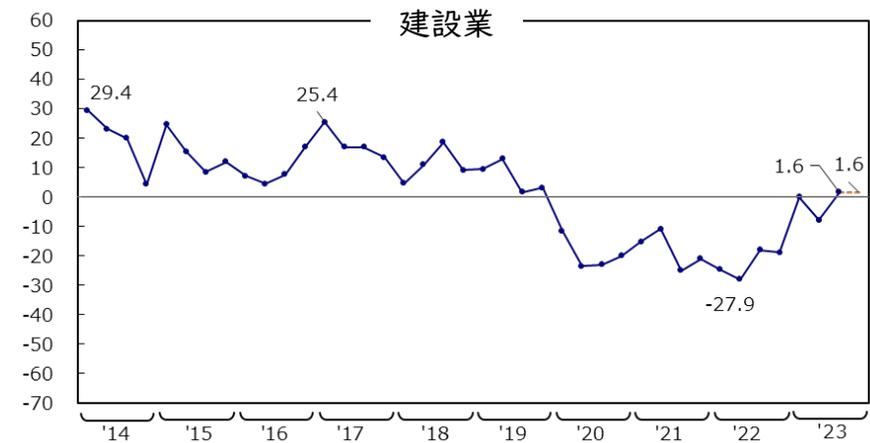
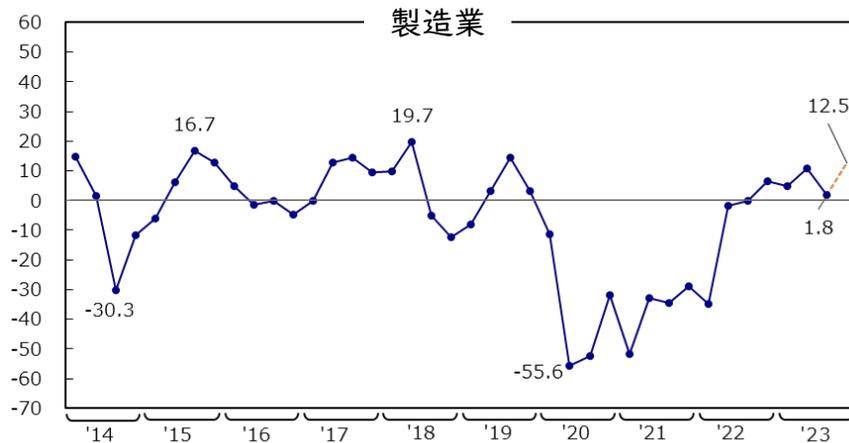
業種	区分	2022年			2023年				
		4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I.(①-②)	4.0	16.7	18.8	20.2	26.0	(28.1)	18.0	20.5
	①好転(%)	29.9	35.5	40.3	39.5	41.6	(40.1)	35.7	34.8
	不変(%)	44.2	45.7	38.2	41.3	42.8	(47.9)	46.6	50.9
	②悪化(%)	25.9	18.8	21.5	19.3	15.6	(12.0)	17.7	14.3
製造業		△1.7	0.0	6.6	4.9	10.8	(15.4)	1.8	12.5
建設業		△27.9	△18.0	△18.8	0.0	△7.9	(△12.7)	1.6	1.6
卸売業		△17.1	28.3	26.1	13.3	39.0	(36.6)	23.8	38.1
小売業		12.8	34.1	35.0	25.6	51.3	(48.7)	27.5	10.0
運輸業		27.3	32.3	35.5	35.5	43.8	(50.0)	28.1	34.4
情報通信業(※)		△9.5	△9.5	△10.5	4.8	△19.0	(4.8)	△5.3	△5.3
サービス業		9.8	24.4	33.3	26.8	37.2	(44.2)	24.4	24.4
飲食店・宿泊業		72.4	81.5	74.1	88.9	81.5	(74.1)	63.0	59.3

※情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

- 小売業では、免税売上の増加やイベントの開催に伴い季節商材の売れ行きが伸びたことで好調を維持したものの、急激な原油高に対して価格転嫁が追いつかず、業況悪化した先がみられたため「好転」超幅が大幅に縮小した。
- 建設業では、土木・電気・管工事業で「好転」回答がみられたことから、「悪化」超から「好転」超へ転じた。

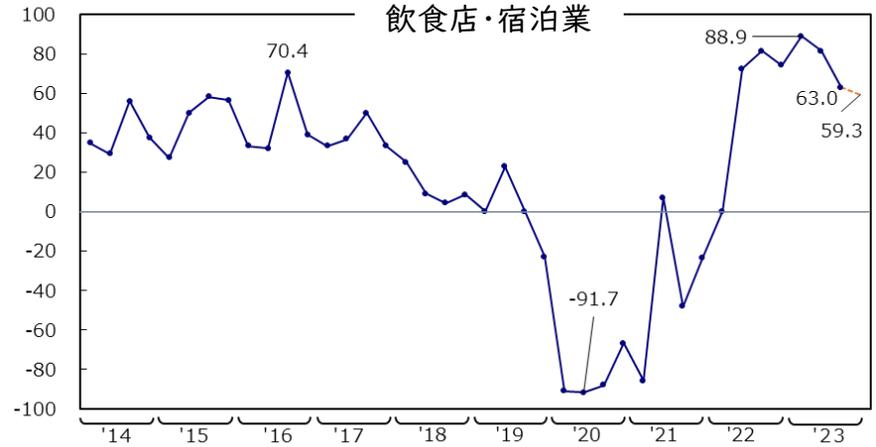
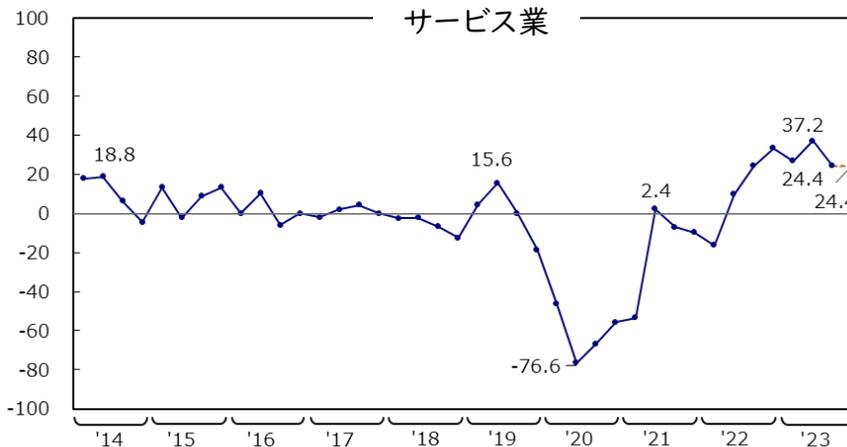
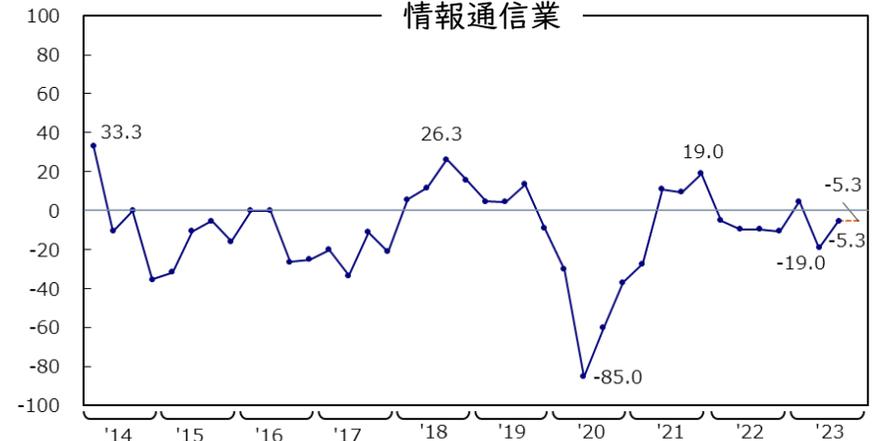
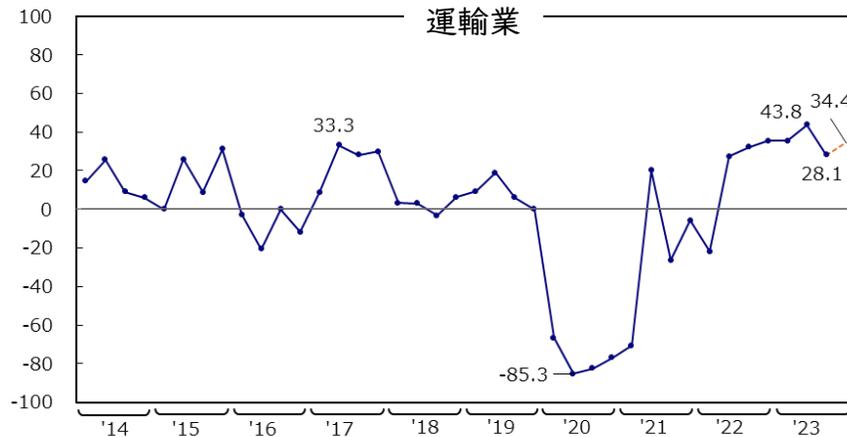
図表5-1 業種別の業況判断D.I.の推移

(単位:%ポイント、オレンジ点線は見通し)



- 運輸業で台風の影響により物流に停滞が生じたことや、サービス業でも営業日数の減少に伴い「好転」超幅が大幅に縮小。
- 情報通信業では、レジャー関連の広告増加や求人サイト・観光客向けITサービスの好調により、「悪化」超幅が大幅に縮小。
- 飲食店・宿泊業では観光客の回復や大型イベントの開催に伴い、利用が進んだことから高い水準で「好転」超を維持した。

図表5-2 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、オレンジ点線は見通し)



2. 景況天気

— 当期は5期連続の「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し —

- 全産業の景況天気について、当期(17.7)は5期連続の「晴れ」となった。
- 来期についても、全産業の景況天気(20.4)は、引き続き「晴れ」の見通しとなっている。

図表6 景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値) (単位:%ポイント)

業種	区分	2022年				2023年			
		4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期		10~12月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業		6.7	16.2	12.1	15.7	20.7	(22.4)	17.7	20.4
製造業		5.0	12.0	△ 1.1	8.7	8.2	(15.4)	8.3	22.0
建設業		△6.0	△ 7.1	△ 10.9	△ 2.1	2.6	(0.5)	2.7	2.7
卸売業		10.6	24.6	18.8	17.8	28.5	(33.3)	33.3	33.3
小売業		6.8	32.5	36.7	29.9	39.3	(39.3)	26.7	28.3
運輸業		16.2	20.4	16.1	24.7	31.3	(30.2)	25.0	33.3
情報通信業		△3.2	△ 1.6	△ 10.5	△ 7.9	△ 17.5	(△11.1)	△22.8	△15.8
サービス業		15.4	23.6	23.9	22.8	31.8	(31.0)	19.5	18.7
飲食店・宿泊業		12.6	34.6	39.5	43.2	50.6	(48.1)	50.6	35.8

快晴 — 30以上~100以下
 晴 — 10以上~30未満
 薄曇り — △5以上~10未満
 曇り — △30以上~△5未満
 雨 — △100以上~△30未満

3. 売上

— 当期は「増加」超幅が縮小、来期は「増加」超幅が拡大する見通し —

- 当期の売上D.I.は、全産業で21.4と「増加」超幅が縮小したものの、22年4-6月期以降「増加」超で推移している。
- 来期は、全産業で29.5と「増加」超幅が拡大する見通しとなっている。

図表7 売上D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2022年			2023年				
	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期 実績	4~6月期	7~9月期		10~12月期
	実績	実績	実績		前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	14.6	28.4	24.5	25.0	29.3	(31.1)	21.4	29.5
① 増加(%)	43.9	52.2	49.7	51.8	53.3	(46.7)	46.9	44.7
不変(%)	26.8	23.9	25.2	21.4	22.8	(37.7)	27.6	40.1
② 減少(%)	29.3	23.9	25.2	26.8	24.0	(15.6)	25.5	15.2
製造業	20.0	25.0	14.8	23.0	12.3	(16.9)	7.1	26.8
建設業	△ 37.7	△ 27.9	△ 21.9	△ 14.1	△ 12.7	(△ 9.5)	△ 4.8	△ 6.5
卸売業	7.3	30.4	28.3	17.8	39.0	(39.0)	33.3	38.1
小売業	10.3	41.5	47.5	43.6	64.1	(53.8)	45.0	42.5
運輸業	36.4	51.6	38.7	41.9	46.9	(50.0)	31.3	56.3
情報通信業	4.8	14.3	0.0	△ 14.3	△ 28.6	(△ 4.8)	△ 21.1	△ 10.5
サービス業	36.6	43.9	43.6	41.5	55.8	(55.8)	26.8	39.0
飲食店・宿泊業	79.3	96.3	85.2	88.9	85.2	(77.8)	66.7	63.0

4. 採算水準

— 当期は「黒字」超幅がほぼ横這い、来期は「黒字」超幅がやや拡大する見通し —

- 当期の採算水準D.I.は全産業で24.5と「黒字」超幅がほぼ横這いとなり、情報通信業以外の業種で「黒字」超となった。
- 特に、飲食店・宿泊業及び卸売業では価格転嫁が進んだことから、「黒字」超幅が大幅に拡大した。
- 来期は、全産業で29.5と「黒字」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

図表8 採算水準D.I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2022年			2023年				
	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期 実績	4~6月期	7~9月期		10~12月期
	実績	実績	実績		前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	8.2	17.3	14.8	19.6	24.0	(29.0)	24.5	29.5
① 黒字(%)	33.5	39.7	37.6	39.5	43.7	(44.6)	42.9	42.9
トト(%)	41.2	37.9	39.7	40.7	36.5	(39.8)	38.8	43.8
② 赤字(%)	25.3	22.4	22.7	19.9	19.8	(15.6)	18.3	13.4
製造業	5.0	18.8	3.3	8.2	10.8	(21.5)	10.7	32.1
建設業	23.0	8.2	△ 1.6	14.1	20.6	(12.7)	19.4	19.4
卸売業	26.8	45.7	39.1	42.2	48.8	(63.4)	69.0	64.3
小売業	7.7	31.7	47.5	33.3	41.0	(53.8)	25.0	40.0
運輸業	15.2	12.9	6.5	19.4	31.3	(25.0)	21.9	31.3
情報通信業	0.0	△ 9.5	△ 15.8	0.0	△ 14.3	(△28.6)	△ 36.8	△ 21.1
サービス業	4.9	17.1	23.1	26.8	27.9	(32.6)	22.0	19.5
飲食店・宿泊業	△ 44.8	△ 14.8	3.7	0.0	11.1	(37.0)	44.4	22.2

5. 資金繰り

— 当期は「楽」超幅がほぼ横這い、来期は「楽」超幅がやや縮小する見通し —

- 当期の資金繰りD.I.は、全産業で7.1と「楽」超幅がほぼ横這いとなった。
- 建設業では、建築資材価格の高止まりの影響が長期化していることや外注費が増加傾向にあることから、「保合い」から「苦しい」超となり、飲食店・宿泊業では「楽」から「不変」にシフトした先がみられたため、「楽」超幅が大幅に縮小した。
- 来期は、全産業で2.2と「楽」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

図表9 資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2022年			2023年				
	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期 実績	4~6月期	7~9月期		10~12月期
	実績	実績	実績		前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①-②)	△ 2.7	3.0	△ 3.0	2.4	8.7	(6.9)	7.1	2.2
① 楽 (%)	6.7	13.1	9.4	13.0	17.4	(13.2)	15.2	10.9
不変 (%)	83.8	76.7	78.2	76.5	74.0	(80.5)	76.7	80.4
② 苦しい (%)	9.5	10.1	12.4	10.5	8.7	(6.3)	8.1	8.7
製造業	△ 10.0	△ 7.8	△ 21.3	△ 4.9	1.5	(7.7)	7.1	7.1
建設業	△ 3.3	△ 1.6	△ 9.4	△ 6.3	0.0	(△1.6)	△ 6.5	△ 4.8
卸売業	△ 2.4	△ 2.2	△ 10.9	△ 6.7	△ 2.4	(△2.4)	△ 2.4	△ 2.4
小売業	2.6	24.4	15.0	12.8	12.8	(10.3)	10.0	2.5
運輸業	△ 3.0	△ 3.2	3.2	12.9	15.6	(15.6)	21.9	12.5
情報通信業	△ 14.3	△ 9.5	△ 15.8	△ 9.5	△ 9.5	(0.0)	△ 10.5	△ 15.8
サービス業	4.9	9.8	5.1	0.0	11.6	(4.7)	9.8	△ 2.4
飲食店・宿泊業	3.4	22.2	29.6	40.7	55.6	(29.6)	40.7	22.2

6. 借入難易

— 当期は「容易」超幅がやや拡大、来期は「容易」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の民間金融機関からの借入難易D.I.は、全産業で6.2と「容易」超幅がやや拡大した。
- 来期は、全産業で5.0と「容易」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表10 借入難易D.I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2022年			2023年				
	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期		10~12月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	0.3	1.2	0.0	1.8	2.7	(3.0)	6.2	5.0
① 容易(%)	4.9	4.8	4.5	6.0	4.8	(4.8)	8.7	8.4
不変(%)	90.5	91.6	90.9	89.8	93.1	(93.4)	88.8	88.2
② 困難(%)	4.6	3.6	4.5	4.2	2.1	(1.8)	2.5	3.4
製造業	1.7	3.1	△ 1.6	△ 1.6	△ 1.5	(0.0)	7.1	7.1
建設業	3.3	△ 1.6	1.6	6.3	3.2	(3.2)	3.2	4.8
卸売業	0.0	6.5	6.5	0.0	2.4	(0.0)	7.1	7.1
小売業	0.0	4.9	0.0	5.1	2.6	(5.1)	5.0	△ 5.0
運輸業	6.1	3.2	△ 3.2	0.0	0.0	(0.0)	9.4	9.4
情報通信業	△ 4.8	0.0	5.3	0.0	4.8	(△ 4.8)	△ 5.3	△ 5.3
サービス業	△ 2.4	0.0	△ 2.6	2.4	9.3	(14.0)	9.8	9.8
飲食店・宿泊業	△ 6.9	△ 11.1	△ 7.4	0.0	3.7	(3.7)	11.1	7.4

Ⅲ. 参考 販売数量、販売価格

参考1. 販売数量 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は5.8と「増加」超幅が縮小した。来期は15.9と「増加」超幅が大幅に拡大する見通しとなっている。

図表11 販売数量D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年			2023年				
		4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期		10~12月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	1.4	12.6	10.2	11.0	11.0	(15.2)	5.8	15.9
	① 増加(%)	36.4	41.1	44.2	44.1	41.4	(39.3)	38.4	37.7
	不変(%)	28.6	29.8	21.8	22.8	28.3	(36.6)	29.0	40.6
	② 減少(%)	35.0	28.5	34.0	33.1	30.3	(24.1)	32.6	21.7

参考2. 販売価格 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は71.7と「上昇」超幅が拡大し、調査開始以来、過去2番目に高い水準となった。
- 来期は65.2と「上昇」超幅が縮小する見通しとなるものの、引き続き高い水準で推移する見込み。

図表12 販売価格D.I. (前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年			2023年				
		4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期		10~12月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	60.0	70.9	67.3	76.6	64.8	(62.8)	71.7	65.2
	① 上昇(%)	60.7	72.8	70.7	79.3	69.0	(66.2)	73.9	68.1
	不変(%)	38.6	24.5	25.9	17.9	26.9	(30.3)	23.9	29.0
	② 下降(%)	0.7	2.0	3.4	2.8	4.1	(3.4)	2.2	2.9

在庫水準、雇用判断

参考3. 在庫水準 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期末は1.4と、前期末と比べて「過剰」超から「不足」超に転じた。

図表13 在庫水準D.I. (当該期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合) (単位:%ポイント)

業種	区分	2022年			2023年		
		6月期末	9月期末	12月期末	3月期末	6月期末	9月期末
全産業	D.I. (①-②)	△ 2.9	△ 5.3	0.0	△ 2.1	△ 2.1	1.4
	① 不足(%)	6.4	7.3	10.2	6.9	6.9	10.1
	適正(%)	84.3	79.5	79.6	84.1	84.1	81.2
	② 過剰(%)	9.3	12.6	10.2	9.0	9.0	8.7

参考4. 雇用判断

- 当期の雇用判断D.I.は、全産業で50.3と「不足」超幅がほぼ横這いとなった。
- 来期も、全産業で52.2と「不足」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表14 雇用判断D.I. (当該期、「不足」-「過剰」企業割合) (単位:%ポイント)

業種	区分	2022年			2023年				
		4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	7~9月期			10~12月期 実績
						前回実績	前回見通し	今回実績	
全産業	D.I. (①-②)	35.1	40.9	47.3	51.8	48.8	(47.3)	50.3	52.2
	① 不足(%)	39.0	43.9	48.8	53.3	50.6	(49.4)	51.9	53.4
	適正(%)	57.0	53.1	49.7	45.2	47.6	(48.5)	46.6	45.3
	② 過剰(%)	4.0	3.0	1.5	1.5	1.8	(2.1)	1.6	1.2

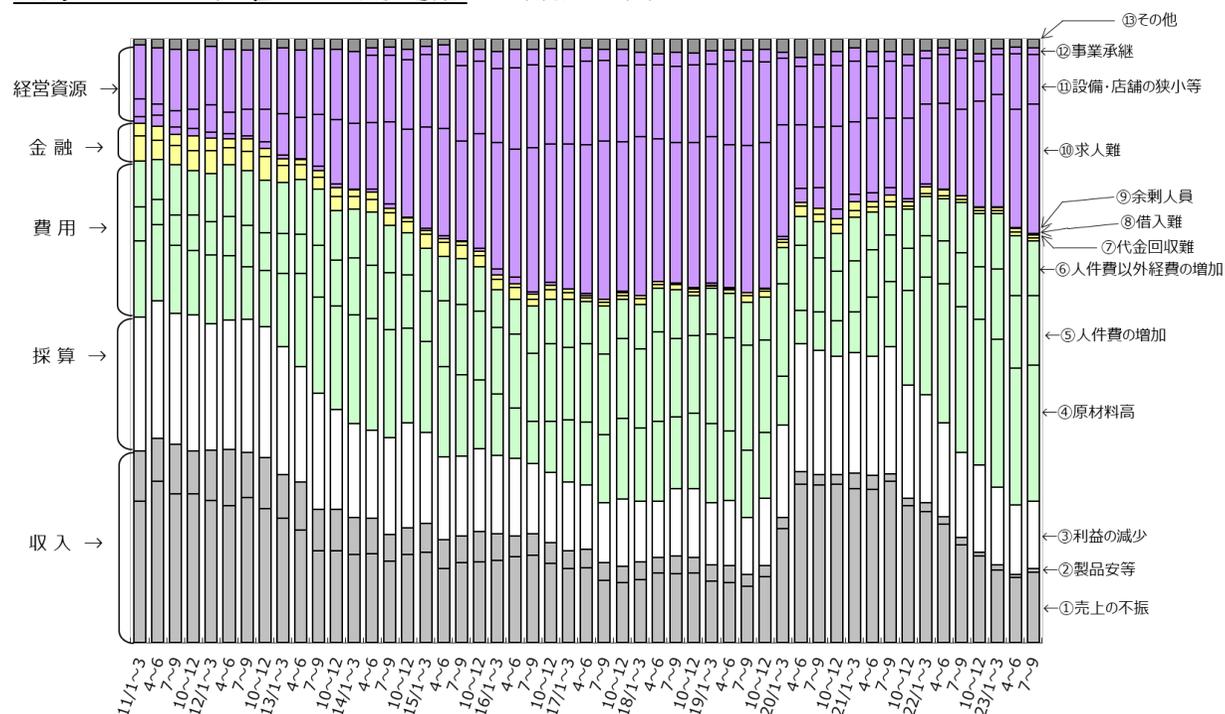
経営上の問題点

参考5. 経営上の問題点

- 当面の経営上の問題点としては、6期連続「原材料高」の割合が最も高く、続いて「求人難」、「売上の不振」の順となった。
- 幅広い業種において、原材料高の影響が続くなか、「求人難」の割合が大きくなった。配送ドライバーの不足・高齢化に対する不安や、建設業では有資格者の不足により、受注機会を逸失している先があった。

図表15-1 経営上の問題点 (複数回答)

(単位:%)



区分	全産業
① 売上の不振	11.7
② 製品安等	0.6
③ 利益の減少	11.1
④ 原材料高	22.6
⑤ 人件費の増加	11.5
⑥ 人件費以外経費の増加	9.1
⑦ 代金回収難	0.5
⑧ 借入難	0.5
⑨ 余剰人員	0.2
⑩ 求人難	21.5
⑪ 設備・店舗の狭小等	8.2
⑫ 事業承継	1.1
⑬ その他	1.4